

## 平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立広島中央特別支援学校		
学校長氏名	山口 秀美	栄養教諭氏名	三上 栄美子
職員数	94名	児童・生徒数	70名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

昨年度までは本校に栄養教諭が配置されていないこともあり、教科等における食に関する指導は各学部でそれぞれ実施し、系統的に行われているとは言えなかった。給食時間においては、給食放送や給食内容の充実に努めているが、その効果も十分とは言えなかった。また、給食行事としてリクエスト献立を各学期に実施しているが、献立作成やセレクト給食等に係る事前・事後指導も十分に行う時間を設けることができていないため、改善していく必要がある。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

各学部の発達段階に応じた食に関する指導目標（平成 28 年度「食に関する指導全体計画」から）

	各学部の発達段階に応じた食に関する目標
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな食べ物に興味をもつことができるようにする。</li> <li>○みんなで食事することで食事は楽しいという気持ちを育てる。</li> <li>○食事が体の成長に必要であることが分かるようにする。</li> </ul>
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食べ物の名前や働きについての理解を深め、健康のことを考えてバランスのとれた食事をとることの大切さを理解できるようにする。</li> <li>○マナーに気を付け、食事をするができるようにする。</li> <li>○身支度や後片付けを、責任をもって行うことができるようにする。</li> <li>○食べ物を大切に、感謝する気持ちをもって、残さず食べることができるようにする。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主食、主菜、副菜について考え、バランスのとれた食事を心がけるとともに、自分の健康に配慮できるようにする。</li> <li>○マナーに気を付け、誰とでも楽しく食事ができるようにする。</li> <li>○衛生面に気を付け、身支度や後片付けができるようにする。</li> <li>○食べ物に使われている材料や由来、特徴などを知り、家庭や地域での食に対する興味・関心がもてるようにする。</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業後の生活が健康的に過ごせるよう、健康や安全に配慮した食生活の管理ができるようにする。</li> <li>○仲間と協力しながら、衛生的で安全な食事の環境を整えることができるようにする。</li> <li>○季節と地域を大切に、外国の食文化の優れた点を取り入れてきた先人の食文化を学びながら、新たな食生活が形成できるようにする。</li> <li>○食事マナーを知り、楽しく食事をする工夫ができるようにする。</li> </ul>
舎務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事のマナーに気を付け、皆で食事をする楽しさを知ることができるようにする。</li> <li>○体の健康を考え、栄養のバランスのとれた食事を心がけることができるようにする。</li> </ul>

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

## 【取組 1】教科等における食に関する指導の充実に向けた取組について

(1) 小学部 1・2 年 特別活動（学級活動）から

- ・ 6 月「たのしいきゅうしょく」

給食ができるまでの様子を、クイズを交えながら解説した。調理に使う道具を準備し、実物を触る時間を設けたり、楽しく給食時間を過ごすためにはどんなことに気を付けたらいいか、児童に考えさせる時間を作ったりすることで、興味をもって取り組めるよう配慮した。

- ・ 9 月「きゅうしょくのこんだてをかんがえよう」

「ひろしま給食」へのレシピ応募をきっかけに、1 食分の給食献立を考える授業を実施した。赤・黄・緑の栄養バランスを考えること、主食・主菜・副菜・汁物をそろえることについて指導し、他のクラスのみみんなもおいしく食べられる献立を児童たち自身で話し合って決定させた。児童の考えた献立は、10 月の給食で実施し、当日は児童自身が給食放送で献立に込めた思いを発表した。

## (2) 高等部普通科3年 家庭科から 健康と食事「6つの基礎食品群を知ろう」

前時までの学習を振り返りながら、5大栄養素と6つの基礎食品群の関係について説明した。食品カードを用いて給食献立を6つに分類し、バランスのとれた献立について考えさせるとともに、事前に聞き取った先生の食事内容を、ワークシートを用いながら分類・評価することで、自身の食生活を振り返らせることができた。



### **【取組2】給食時間の充実に向けた取組～給食放送を活用した主体的な学び～**

#### (1) 児童生徒による給食放送の開始

給食放送は、これまで栄養教諭・学校栄養職員が行っていたが、10月の食育ウィークから児童生徒による放送を開始した。内容や進め方は担任等と連携し、順次希望クラス・希望者を対象に実施した。現在は中学部が中心となって行い、主体的な学びの場の一つとして活用されている。

放送の内容は、献立・ひとロメモを読むことからスタートし、使用されている食材についてなど自分の考えたことや調べたことなどを原稿にまとめ、発表している。国語、特別活動、自立活動などとの関連ももたせながら実施している。放送の音に敏感な幼児児童生徒もいるため、放送の音量や時間設定などには配慮するとともに、話す速さや言葉遣いなど、相手への伝え方についても考えるよう指導している。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

#### (1) 給食試食会での提供・周知

6月の給食試食会で、参加保護者に「ひろしま給食100万食プロジェクト」の趣旨について説明し、取組への理解と協力をお願いした。献立には昨年度の入賞レシピを取り入れた。

#### (2) 特別支援学校統一メニューの作成

県内の特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員で、最優秀レシピ「タコタコライス」に合わせた副食メニューとして「トクトクポトフ」を考案し、統一メニューとして給食に提供した。食育だよりで取組とレシピについて伝えた。

#### (3) 食育ウィークの取組

10月の食育ウィークでは、今年度のひろしま給食を給食で提供するとともに、給食放送や食育だより、ポスター掲示などで興味が高まるよう取り組んだ。

## 5 取組に対する成果と課題

### **【成果】**

#### (1) 食に関する指導の参画について

今年度から栄養教諭が授業に参加することができた。授業時間は少なく、その指導効果は期待できる

ほどのものではないかもしれないが、幼児児童生徒及び教職員が食育への意識をもつきっかけ作りはできたと思う。来年度の指導計画の中にも積極的にかわりをもっていきたいと思う。

## (2) 児童生徒による給食放送の効果

当初興味本位で放送を始めた児童生徒も、経験を重ねるにつれて、内容や話し方などに工夫をするようになり、数か月の間に知識だけでなく心の面でも見違えるように成長した。現在は、堂々とした姿勢で、自信をもって、はっきりとした口調で話すことができ、やりがいを感じながら放送を実施している。その様子を教職員や他学部の幼児児童生徒も感じ、給食放送をしたいという声が増加している。放送を通した主体的な学びの効果を、全校で共有できていると感じる。

【児童生徒による給食放送実施回数】 10月：7回 → 2月：16回

### 【課題】

#### (1) 栄養教諭の授業力について

視覚障害に配慮した指導方法や教材の活用方法など、授業力の向上が求められる。

#### (2) 教科等と関連付けた給食内容の充実

学習内容に関連した献立作りや地場産物の積極的な活用など、給食を教材としてより良いものにしていく必要がある。

【地場産物活用状況】平成26年度 6月：22.6% → 11月：23.1%

平成28年度 6月：23.5% → 11月：24.1%

#### (3) 家庭との連携

給食試食会や毎月の食育だよりなどで保護者との連携を図っているが、十分な理解・協力が得られていないと言えない。今後も積極的な取組が必要である。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

### (1) 授業への参画について

- ・突発的なものではなく、授業計画の段階から栄養教諭を積極的に活用して食育を進めていきたい。
- ・授業に参画する際は、事前に授業を見学して指導する幼児児童生徒の実態を十分把握し、担当教諭と密な連携をとっていきたい。その時間を確保するため、給食管理等他の業務を効率的に行う必要がある。
- ・視覚障害に配慮した授業の進め方について、栄養教諭の技能習得が望まれる。

### (2) 給食放送をより活用していくために

- ・他学部でも積極的に実施していけるよう呼びかけを行う。
- ・各教科等の授業や、リクエスト献立などの給食行事とつなげ、より広がりをもたせていきたい。

### (3) 魅力ある学校給食をつくるために

- ・給食内容の充実を図り、教材として活用できるものとする。
- ・保護者の願い、学校給食へ期待することを十分把握し、家庭との連携を深める。